

太宰府の文化財

vol. 495

土器に残る動物の足跡

大宰府条坊跡出土の鎌倉時代の足跡

土器の表面には制作過程で道具の跡や指の跡、植物の跡など様々な痕跡が残りますがごく稀に、動物の痕跡も見られます。今回は鎌倉時代に作られた土師器の小皿に残った動物の足跡を紹介します。

写真1は径約8.2cmの小皿で、中央から縁辺に足跡が2つ残っています。足跡の大きさは長さ・幅とも約3cm程です。2つの足跡を比較すると、指



写真1 大宰府条坊跡第140次調査出土

と掌球（足底球）の大きさ、形に違いがみられます。重なり具合から左側の足跡が先で、その後右側の足跡で上書きされていることがわかります。

写真2は小皿の破片で、縁辺付近に粘土に食い込むように深く指の跡が3本残り、掌球（足底球）部分は浅くわずかに凹みます。足跡は一部欠損しているため正確な大きさはわかりませんが、残り具合か



写真2 大宰府条坊跡第330次調査出土

ら写真1の足跡と同規模のものと推測されます。

2つの足跡は、指と掌球（足底球）の配置・間隔、大きさ・形がほぼ同じことから、同一種の動物と考えられます。

この動物の正体ですが、指が楕円形で、掌球（足底球）は角が丸くなった台形状という特徴から猫（イエネコ）が挙げられます。犬、狐、狸など他の動物の可能性も考えられますが、猫と大きな違いがあります。それは「爪」です。猫の爪は肉球に挟まっているため普段は隠れています。その他の動物は爪がむき出しになっているため爪痕が残ります。写真に写る足跡には爪跡がみられないため、猫の可能性が非常に高いです。

に高いです。

猫は大陸から人とともに海を渡って日本にきました。国内で知られる猫の存在については弥生時代まで遡ります。市内においては古代の猫の骨が見つかっています（広報だざいふ387号）。平安時代の文献に猫の記述があることから、このころには猫の数も増え、人に身近な動物となっていたのでしょう。本来ならば足跡がついたものは廃棄の対象ですが、偶然、残された足跡は当時の人と動物の関係を教えてくれる貴重な資料です。

文化財課 中村 茂央

太宰府市公式SNSのフォローをお願いします！



LINE



エックス



Facebook



太宰府市公式
ホームページ



編集：太宰府市総務部経営企画課 〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121/FAX(921)1601 ✉keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

UD
FONT
by MORISAWA

気になる記事はホームページのページID検索から探すことができます。